



こうした街のええところを伸ばすまちづくりとは？



道端では誰が誰に突然話しかけても自然な感じ。目的も無く歩いても「不審者」ではない。将棋だって自然に発生する。これはこの街の長所であり、伸ばしていくべきでは。

考え方のポイント ～西成特区構想への提案をするにあたって～

釜ヶ崎のまち再生フォーラム（絵と文と写真 ありむら潜）

「仮称萩之茶屋まちづくり拡大会議」が統一した要望書&ビジョンを西成区長に提出することになった。それに向けて再生フォーラムでも独自の議論を行なった。その一端を紹介する。参考になれば幸いである。

- 1) 何かと否定的に見られがちな釜ヶ崎（あいりん地域）には失ってはいけないものがあり、それは守る。その破壊は社会に甚大な打撃になる。そこを読み違えないように。
たとえば、①あいりん総合センターの寄り場は維持すべき。規模縮小と位置の変更は譲れるが、現役日雇い労働者層が5千～8千人はまだ存在する以上、この機能が取っ払われるとたいへんな社会混乱がもたらされる。②日雇雇用保険制度や生活保護制度などのセーフティ・ネットもまた同じ。あいりん職安での日雇い雇用制度の総崩壊がなければ稼働層が数千人規模で生活保護申請に走ることはなかったかもしれない。国の責任と資金も撤退させない。
- 2) 逆に、どうしても引き継ぐべきものがある。「これまでの釜ヶ崎の良さを引き継いだまちづくり」ならまちづくり警戒派でも賛同することは確認できている。良さとは「多様な人々を受け入れるふところの深さ(包摂力)」と「気さくな独特のコミュニティ=天然の“コレクティブ・タウン”であること」に収れんするように思われる。
- 3) だから、「これだけは守る。こうなら変われる。こうは変わらない」とはっきり言うことも必要。
- 4) 今あるものをどう使い直すかの観点から長所・利点としてとらえ直し、活用すべきものがある。マイナスと言われているものがほんとにそうなのか、複眼でのとらえ直しが釜ヶ崎では特に必要。簡易宿泊所の存在も、それをどう多様性を持って使うかという逆提案のほうが説得力がある。
- 5) そのうえで、人々が参加したくなる、うんと夢のある新しいものをこの地に力強く育てる。ヘンナモノを接ぎ木してはいけないが、ふさわしいモノを接ぎ木すれば力強くまた伸びる。
- 6) 一般市民の理解がいくような「わかりやすさ」が必要。釜ヶ崎の内側の論理は通じない情勢である。新規流入層も包み込む新しい街のコンセプトを示すキャッチコピーも考える。レジリエンス Resilience (=しなやかなかで弾力性のある回復力の意) の和訳が候補か。

以下、字数の許す範囲で提案例を列記する。〈⇒別表(報告書3)に一覧表〉

- ①西成労働福祉センター・市立更生相談所・大阪社会医療センター、及びホームレス就業支援センターの一体的運営をめざす。国・府・市等の系列下でバラバラなケースワークを一体化する。この業務連携は、適切な生活保護実施のためにも、あいりん総合センター建て替え議論以前に着手可能かつ必要だ。
- ②地域内の休眠地を活用した大がかりな「屋台村」の創出。若者吸引や起業支援にもなる。ただし、管理運営に警察を含む公的な後押しが必要。
- ③すでに「日本のニューオーリンズ」の予兆がある「西成ジャズ」の勃興のように、アーティストや若者支援策を強化。
- ④簡易宿泊所の活用は、単身高齢者向けだけでなく「子供連れ家族の新しい共同的な住まい方」の事業化にも支援策を。
- ⑤外国人安宿街でのベッドメイキング仕事など「地域で雇用創出システム」のモデルをつくる。
- ⑥統廃合が決まった萩之茶屋小学校跡地を「若者世代を呼び込む多種多様なしかけのインキュベーション拠点」とする。
- ⑦まちづくり公社の設立で休眠物件(土地・空き店舗)を流動化させてまちづくり資源を創出する。
- ⑧JR新今宮駅北側の広大な空き地に長距離バスセンターを誘致。これは釜ヶ崎の伝統的「旅人の街」文化になじみ、若者層の吸引にもつながる。